



年頭のご挨拶

会長 木下 毅

あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願い致します。
今年で会長になって8年になります。皆様のお陰で何とか続けてこれましたが、77歳になった事でもありそろそろ引退しようと思っています。

いま地域医療構想では各医療圏で必要な病床を確保しようという事になっていますが、あまり話は進んでいない様です。急性期の病院の動きは個々の病院の都合が優先し、ほとんど動きはありません。回復期は定義が今一つはっきりせず、名称の見直しも含めて検討を始めようという動きが出て来ています。慢性期は、介護医療院への転換の様子を見ながら決まて行くと思われます。いずれの医療圏でも、調整会議を行う事だけで、あまり中味はない様です。県庁も調整会議を行う事は各医療圏に求めています中味については、特に何か言う事はありません。当分話は進まない様です。職員確保や介護保険サービスや最近増えている各種高齢者向けの施設の増加等で患者確保も考えないといけない状況にあります。その内に各病院の都合でベッド調整は進んで行く様な気がしています。いずれにしても国はスケジュールを決めて都道府県に早く決めるように言っていますが、国自体の具体的な動きはありません。

看護職員、看護補助者（介護職員）の大巾な不足が予測されておりますが、これは現状の制度・環境で業務を続けてゆくことが前提となっています。外国人職員の導入、高齢者の活用、AI、IoT、ロボットの導入等いわれていますが、これらがすべてうまく行ったとしても、今いわれている、介護労働者不足、医療スタッフ不足を補える事はありません。医療・介護の制度をいかに簡略化するかが重要だと思っています。間接業務を出来るだけ減らし直接業務にかかわる時間を増やして行かないといけません。書類の整理と共通化を計り不要と思われる書類をなくしてしまう事、現場の意見を取り入れ煩雑な規則での運営等思い切って簡略化する必要があります。これらの事は現場から提言していかなければ実現できないと思います。働く人が増える可能性はあまりありません。少ない人数でできる医療・介護体制を目指して行かないと制度は破綻します。

地域包括ケアシステムもこれに沿った診療報酬、介護報酬改定を行ったとうたっています。基本的には行政が構築する事になっていますが、全くといっていいほど進んでいません。先進的事例として取り上げられているのは、医療機関が中心となって、医療を中心としたシステムです。地域包括ケアシステムという言葉は良く使われていますが、全体像は全く見えていないといえそうです。自院の立場からあるべき姿を考え自院の経営が継続できるように考えてゆかないといけない環境にあります。

今年が会員の皆様にとって良い年であるように願っています。

CONTENTS (目次)

山口県病院協会会長挨拶	1 ページ
山口県看護協会会長挨拶	2 ページ
協会役員コーナー	3 ページ
病院スタッフコーナー	4～5 ページ
研修会報告	6～8 ページ
諸会議報告	9 ページ
事務長部会コーナー	9 ページ
お知らせコーナー	10 ページ

年頭所感

年頭所感



公益社団法人
山口県看護協会

会長 西生 敏代

新年あけましておめでとうございます。皆様方には、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、平素より、山口県看護協会の活動に対し、ご理解とご支援を賜り感謝申し上げます。

今、少子高齢化の進展による超高齢化社会の到来に対応すべく、医療・社会保障制度改革として、地域医療構想の実現と地域包括ケアシステムの構築が進められています。

こうした中、看護職は、住民に最も身近な地域保健、医療、福祉の専門職として、よりよく地域を支える役割を果たすことが求められており、その育成・確保、資質の向上は喫緊の課題です。更には、安全・安心な医療・看護提供に直結する看護職の勤務環境の改善に取り組むことが必要とされています。

このため、看護協会では、会員数一万人の看護職の専門職団体として「地域包括ケアにおける看護機能の強化」を重点事業の柱として、それを支える「看護の質の向上とキャリア形成の推進」「看護職の働き方改革と定着」また、事業推進を加速できる「組織の強化」の事業を展開しているところです。

具体的には、「医療の視点」「生活者の視点」の尊重及び「家族を支える視点」を持った「地域包括ケアにおける看護の機能強化」に向けた研修等に取り組んでいるところです。

また、新たに、地域の実情により合わせた地域包括ケアの推進に向けて、本会支部組織を活用した課題抽出と、それに対応した実践者の資質向上を目指す研修等を組み合わせたモデル事業を展開しています。

この他、県などの関係機関と連携し、地域偏在による産科医師や分娩施設不足に対応し、基幹病院の助産師が出向先の地域の病院で活躍できる「助産師出向支援導入事業」、また、昨年7月豪雨災害の際には、災害協定に基づき災害支援ナース派遣要請を受けて、広島県呉市の避難所へ災害支援ナースを派遣したところです。

こうした事業を推進し「県民の健康な生活の実現」を図るためには、病院・医療関係団体、県・市町の保健・医療・福祉分野など多種多様な連携、支援が重要です。

病院協会の皆様には、これまでも、看護管理者会議への参加、県「医療勤務環境改善支援センター」と連携して実施した「医療勤務環境改善アドバイザー派遣事業」では、職場に看護職・社会労務士等が訪問し、就業体制等の指導助言を行わせていただくなど、各般に渡るお力添えをいただいているところです。

看護協会といたしましては、これからも、今まで以上に地域社会を支える看護の役割をしっかりと踏まえながら研鑽を重ねて参りますので、引き続き、皆様方のご理解と一層のご支援をお願い申し上げます。

結びに、会員の皆様方のご健勝、ご多幸を祈念いたしまして年頭のあいさつとさせていただきます。



協会役員コーナー

年頭所感



医療法人 神徳会
三田尻病院

理事長 神徳 眞也

新年明けましておめでとうございます。

皆様には、良い年を健やかに迎えられたものと、心からお喜び申し上げます。

さて、国民の5人に1人が75歳以上となる2025年を前に、今 医療が大きく変わってきています。「地域医療構想」、「地域包括ケア」をキーワードにした医療病床の削減や医療機能の再編、そして在宅医療へのシフトが求められているのはご存知の通りです。本当に地域に必要とされる医療機能のみが残ることが許される、今まで以上にさらに厳しい医療情勢になるものと予想されております。

さて、昨年6月29日成立した働き方改革関連法に伴い本年4月から、

1. 労働時間に関する制度の見直し（労働基準法、労働安全衛生法）
2. 勤務間インターバル制度の普及促進（労働時間等設定改善法）
3. 産業医・産業保健機能の強化（労働安全衛生法）

等々の新しい規定が我々病院にも課せられます。しっかりとした準備が求められます。

医師については、今後5年間かけて厚生労働省で医師の働き方改革に関する検討会で協議されることになっておりますが、勤務医の労働環境が適正となり、患者様の診療に支障が生ぜず、我々医療機関にとっても無理のない改革が実行されるように望みます。

また10月には、いよいよ消費税10%時代を迎えます。平成元年の消費税導入時にボタンを掛け違えていたことが、「控除対象外消費税負担」として今日まで我々を苦しめていることは言うまでもありません。しかし、法施工から30年を迎え、今さら掛け違えたボタンは戻せません。今後とも、各医療機関ごとに不公平がなく適正額が診療報酬に補填されるようにしっかりと提言していかなくてはなりません。今回の消費税10%はただの通過点でしかないことを忘れてはなりません。

様々な課題をいただいでる新年ですが、我々病院は地域に求められる適切かつ良質な医療を提供し続けていなくてはなりません。医療制度がどのように変わっても、医療の基本が、患者さんとの信頼関係であることは変わらないと思っています。そして、その信頼は、常に目の前の患者さんに集中し、生命を尊重し、愛情をもって、全力で尽くすことでしか得ることはできないと思っています。信頼を得ることは容易ではありません。しかも、その信頼を失うのは、一瞬です。しかし、その信頼こそが、医療人にとっては、正にかけがえのないものであることを忘れてはいけません。

今年も よろしくお願ひ申し上げます。

今年も朗らかに



医療法人 和同会
片倉病院

理事長 高橋 幹治

あけましておめでとうございます。

昨年春、宇部市行政の協力を得て中国山東省（山口県の友好省 人口1億人）威海市（宇部市の友好市 人口350万人）を訪問し、総合病院・リハビリ施設・看護大学を視察してきました。イメージに反し日本人に対しても非常に友好的でした。夏にはアメリカ西海岸で米国版地域包括ケアシステムの一部を出張視察してきました。ドラッグストアでのナースプラクティショナー（特定看護師）の活動状況等、学ぶべき点は多かったのですが、一番驚いたのは、あるホテル客室にアマゾンエコーがおいてあった事です。スイッチを使うことは殆どなくコンセルジュも不要です。秋にはベトナム（人口1億人）ホーチミンへ介護の技能実習生確保のため訪問し、日本語学校・私立大学・関連企業・JETRO・山口県人会と交流を持ちました。中国・ベトナムでの懇親会ではどちらも酒を注ぐたびに乾杯する習慣があるので「またかいな〜」でしたが、私の飲酒スピード違反には皆さん目を白黒させていました。

第4次産業革命にてIoTが浸透してゆき、クラウドの中で物事が管理・処理され Society Ver5.0への移行が進んでいます。医療界でもオンライン診療、オンライン会議・委員会（TV会議）ができるようになってきました。次世代の医療現場の姿も少しずつ変わってゆきそうです。

変化の激しい世の中ですが、おれることなく本年も清く正しく朗らかに過ごしていきたいと思っています。

病院スタッフコーナー

地域に密着した医療を目指して



医療法人社団 千寿会
岩国第一病院
栄養部主任
管理栄養士

米本 琴美

新年、あけましておめでとうございます。

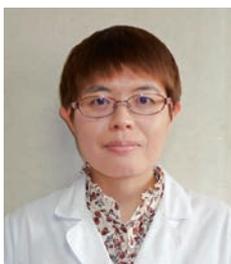
当院は、大正2年より岩国において地域医療を行い、現在105周年を迎えております。近くには錦帯橋もあり、四季の移ろいを感じる事が出来ます。地元の方々と密着した病院として患者様の健康管理を行なっております。病床数は47床で「私たちは、やさしさ、思いやりの心を持ち、安心・信頼・満足のいただける医療・看護・介護につとめます」という当院理念のもと、患者様やご家族の気持ちに寄り添った医療の提供に心がけております。

私は、管理栄養士として勤務し8年目になります。理念に基づき私なりに何が出来るか日々模索しております。当院の患者様はご高齢の方が多く、病院外へ出ることが難しくなっていっちゃいます。食を通じ、季節を感じていただき、入院・闘病生活を少しでも楽しめる食事提供を目指しております。また、慣れ親しんだ味を楽しんでいただける様に当地の名物の「岩国寿司や蓮根、椎茸等で作る大平（おおひら）」などの郷土料理も提供しております。

先日、普段は食事量の少ない患者様が「懐かしく昔を思い出す。岩国寿司の作り方はね!!!」と生き活きと身振り手振りで教えてくださいました。その後、笑顔で全量喫食される姿を拝見し、食の持つ力や、大切さを痛感いたしました。

今年度も、患者様に「笑顔で楽しんでいただける、またパワーを与えられる」そんな食事が提供出来る様、日々精進していきたいです。

いつまでも美味しく楽しくお食事を



社会福祉法人鼓ヶ浦整肢学園
鼓ヶ浦こども医療福祉センター
管理栄養士

藤本 奈緒子

新年あけましておめでとうございます。当院は山口県周南市の久米地区に位置し、山口県内唯一の発達に障害のある患者様の専門病院です。

医療法による病院としての「鼓ヶ浦こども医療福祉センター」と児童福祉法及び障害児総合支援法による「鼓ヶ浦こぼと園・ひばり園・あゆみ園・つばさ園」の社会福祉施設としての機能を持っています。また、山口県立周南総合支援学校が隣接し、小学部・中学部・高等部が設置され入園児が通学しています。

重症心身障害児は、その障害の違いにより個人差が大きいため、栄養評価を定期的に反復して行う必要があります。さらに、多くの患者様は摂食・嚥下障害を合併しているため、個別対応食が必要不可欠です。

当栄養管理班では、乳幼児から高齢者まで幅広い年齢層の利用者ひとり一人の状態に合わせて食事量や摂食・嚥下機能に合わせた食事形態、治療に必要な栄養素の制限に対応した食事の提供を行っています。発達状況や症状、身体機能に合わせた食事を提供するために、多種多様な調理法・加工法を組み合わせて、安全で美味しい食事作りを心掛けています。また、外出される方がとても少ないため行事食やおやつなど、毎日の食事を楽しみを持って頂けるように、季節を感じられる献立立案を行っています。

今後も当法人の基本理念である「専門性の向上と自己研鑽の実践」を続け、利用者様のニーズに応えられるように、また新しい情報を取り入れることで、時代に合った栄養支援が行えるように努力していきたいと思っております。

病院スタッフコーナー

新年の思い



医療法人
長府病院

事務長 境 章弘

新年明けましておめでとうございます。

平成31年の年頭にあたり、病院協会の皆様には健やかに新年を迎えられましたことと心からお慶び申し上げます。

本年は、年号の名称変更と消費税アップが控えており多忙な一年になろうかと思われまします。当院は、下関市の長府に位置する、入院病床60の小規模な病院です。主に内科の診療、人間ドック等の健康診断を実施しており、特に健康診断につきましては、工業団地が近い事から採用時、定期健康診断等は非常に増加しております。また、事業所に向いてのインフルエンザ接種のサービスも実施して、地域医療の予防医学に少しでも役立てばと思っております。

私も60代半ばになり、非常に体の衰えを感じております。物忘れや平地でも足が運ばず、つまづく事が多くなってきました。高血圧で薬も飲んでおり、健康が宝というのが非常に大事と思う今日この頃です。今はスポーツジムに通い、老化と戦いながら筋トレ、ランニング等で身体をいじめております。また趣味としまして、オーディオが好きで昔高嶺の花であったアンプ、スピーカー等が中古ではありますが、オークションで購入でき、なつかしい昔の音を楽しんで、心身共に充実した日々が送れるように31年度はさらに努力して行くつもりです。

現在の医療制度は、少子化、高齢化により破綻の瀬戸際まで来ていると言っても過言ではありません。この様な中、当院が地域医療政策にどのように参加、協力できるか考えていかなければならない年です。

温故知新の姿勢



玉木病院

事務長 長沼 晋太郎

あけましておめでとうございます。

当院は山口県の北部に位置し、一般病棟40床、療養病棟111床のケアミックス病院です。平成27年7月に登録された世界遺産の一つである「萩城下町」に隣接しており、歴史と文化に育まれた病院として、おかげさまで平成25年5月10日には創立100周年を迎える事ができました。

私個人としましては、当院に勤務し、昨年10月によく5年目を迎え、当院の100年という歴史の中ではまだまだ日も浅く、若輩者であり日々多くの事を学ばせて頂いている処です。私が多くの先輩方と共に日々務めていく上で、心掛けている事は、故きを温ね、新しきを知るという「温故知新」の精神です。病院に務める者として「どのような時代にも共通する基本的なあり方」を大切に守りつつ、時代の変化を察知し、順応し

ていく姿勢が求められると感じております。

幸運にも、昨年10月に、iPS細胞の研究でノーベル生理学・医学賞を受賞された山中伸弥教授が萩の教育講座でご講演され私も拝聴する事ができました。その中で、松下村塾の塾生である山根孝中先生の紹介があり、山根先生が戊辰戦争の最中、敵味方を問わず、戦傷者の治療や婦女子の救護にあたられた事に大変感銘を受けました。当院も基本理念として、「急性期（医の本質としての救急）と慢性期（医の心としての介護）との全人的医療」が当院の原点であると掲げており、まさにこのような全人的な姿勢こそが、「どのような時代にも共通する基本的なあり方」ではないかと考えております。

当院が院長を中心としてより良い医療・看護を提供させて頂き、地域の皆様が安心して生活できるように、今後とも事務職員として、環境の整備・維持に微力ながら務めて参りたいと考えております。

この度は、このような貴重な機会を頂きましたことに、心より感謝申し上げます。

研修会報告

平成30年度 病院中堅看護師研修会

平成30年10月17日（水）山口県総合保健会館第一研修室において病院中堅看護師研修会が開催され、150名の参加があった。

研修会のテーマ・講師は以下のとおり。



長谷川 京子氏

【研修会】

テーマ 「中間管理職として身につけておきたいこと

～コミュニケーションスキルを中心に～

講師 医療法人和同会 宇部西リハビリテーション病院

看護部長 長谷川 京子 氏

テーマ 「チーム医療の中で求められる中堅看護師像」

講師 山口県病院協会 理事

周南市立新南陽市民病院

病院長 松谷 朗 氏



松谷 朗氏

長谷川氏は、より良い人間関係構築のため、アサーティブなコミュニケーションについて、事例をあげながら解説された。

松谷氏は、専門分野の糖尿病についての研究データなどを交えつつ、療養指導の場面で中堅看護師が担う役割について話され、期待を込めてエールを送られた。



研修会風景

～病院中堅看護師研修会に参加して～



周南市立
新南陽市民病院

看護師 平松 由紀

中堅看護師の役割の1つとしてリーダーシップの発揮が求められます。今回の研修に参加させていただき、リーダーシップの発揮において良好なコミュニケーションスキルが必要であることを学びました。

長谷川先生より、自分の意見を相手の立場を尊重しながらしっかり伝えるコミュニケーションである「アサーション」について講義を受けました。自身を振り返ると、自然とアサーションが行えていることもあります。職務多忙の際、余裕がなくなり、自分の意見とは異なるのに同調してしまう事があります。この状態は「ノンアサーティブ」と言われる状況で、同調することで相手に配慮しているようで、実は相手に対して率直ではなく、自分に不正直であったと学びました。この学びを持ち帰り、お互いを尊重しながらディスカッションし、より良いコミュニケーションを構築できるようにして、チームの発言力が高まりチームワークが活性化して行くように努めていきたいと思えます。

次に糖尿病医療のご専門の松谷先生からは、糖尿病の療養指導においても中堅看護師としての知識の発揮が期待され、また、技術・知識の向上が意欲となり、やりがいへ繋がると話されました。これからも中堅看護師としての自覚を持ち、役割を意識しながら業務に携わりたいと再認識しました。更には、自己のキャリアビジョンを描くことができるよう、自己研鑽に努めていきたいと思えます。

今回の研修で、初心に返り自己の信念など再確認できる機会をいただきましたこと感謝いたします。

研修会報告

平成30年度 病院看護師長研修会

平成30年11月26日（月）山口県総合保健会館第一研修室において病院看護師長研修会が開催され、97名の参加があった。

研修会のテーマ・講師は以下のとおり。

【研修会】

テーマ 「元気な看護管理者であるために」

講師 医療法人杏祐会 三隅病院
看護部長 猪上 妙子 氏

テーマ 「地域医療構想と病棟運営について」

講師 山口県病院協会 常任理事
山口県厚生農業協同組合連合会 周東総合病院
病院長 馬場 良和 氏

猪上氏は、管理職になるということは役割を演じることでありと最初に示された。看護管理者として、弱みを知って強みを活かし、社会や病院内で起こっている物事に対応するため、心身の健康を保持することの大切さを語られた。

馬場氏は、地域医療構想と調整会議について詳しく説明され、医療制度が変わっていく中で、自院の立ち位置を理解して看護を考えていく必要があると話された。



猪上 妙子氏



馬場 良和氏



研修会風景

～病院看護師長研修会に参加して～



山口県厚生農業協同
組合連合会
周東総合病院

看護師長 片山 美代子

私は現在、地域包括ケア病棟の師長として管理の難しさに悩む日々を過ごしています。今回の研修会は、今後の看護管理者として、自分がどうあるべきかを考える機会になりました。

猪上先生の講演では、看護管理者が元気で働くために多くのヒントをいただきました。特に印象に残ったのは、看護管理者として「覚悟をきめること」です。そのためには、役割を自覚し、立ち止まって考える時間や場を作ることが必要であり、たくさんの人に支えられていることを忘れず、抱え込まないことが大切であると言われていました。また、私達は、たくさんの人を支えている存在であり、頑張っている自分を褒めることも必要であると言われ、ハッとしました。今回のヒントを活かし、私自身が楽しく、元気な看護管理者でありたいと改めて感じました。

また、馬場先生は、「日本の医療の現状を踏まえた山口県の医療構想と自施設の現状と病棟運営」について講演されました。この講演で、地域包括ケアシステム、特定行為と認定看護師教育、看護基礎教育などの医療政策や看護界で現在推進されていること、課題となっていることを理解した上で、今後の医療圏内の状況を見通し、対応する意識が必要であると再認識しました。この研修を活かし、医療圏内での自施設の役割を果たすために、自部署の課題に取り組みたいと考えています。

研修会報告

平成30年度 病院看護補助者・介護職員研修会

平成30年12月6日（木）山口県総合保健会館第一研修室において
病院看護補助者・介護職員研修会が開催され、163名の参加があった。
研修会のテーマ・講師は以下のとおり。

【研修会】

テーマ 「聴き上手になるコミュニケーション技術」

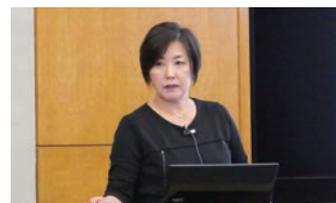
講師 小野田赤十字病院
看護部長 伊藤 泰枝 氏



伊藤 泰枝氏

テーマ 「社会（職場）に対応、応用する人間力を磨こう
能力は開発できる！！」

講師 医療法人愛の会 光風園病院
地域連携部長 中尾 郁子 氏



中尾 郁子氏

伊藤氏は、社会で求められている「社会人基礎力」としてコミュニケーションスキルが重要であると、具体的なスキルについて、演習を通して解説された。

中尾氏は、離職理由のひとつでもある人間関係のストレスを軽減できるよう、また自信をもって仕事ができるよう、コンピテンシーの概念を紹介し、対応力を磨いていこうと講演された。



研修会風景

～病院看護補助者・介護職員研修会に参加して～



小野田赤十字病院
介護係長 石田 晶子

「コミュニケーションについて」では、今、社会に求められているのは社会人基礎力であり、チームで働く中、コミュニケーションが非常に重要であると再認識しました。そしてコーチングについて演習を交えながら学びました。新人職員との関わりを振り返ると反省点も多く、今後は相手の言葉を引き出す、待つという事を心掛けたいと思いました。

「社会に対応できる人間力について」では、介護職の離職率の高さに触れ、その一番の原因は人間関係であると話されました。利用者ニーズが多様化してきている中、求められるのは、コミュニケーション能力や個性のある対応が柔軟にできる能力であり、こういった対応力が身につけば、どんな状況でも応用が利き、長く仕事を続ける事ができると学びました。そして、業務達成の為に有効な思考や行動特性であるコンピテンシーを高める必要性について説明されました。日々様々な事に関心を持ち、感性や対応力を育み、人間力を高める事が大切であり、その為には、

目標を掲げ自分自身を高める事が重要と学びました。

今回コンピテンシーについて学び、成果の高い職員の行動特性を共有する事で人材育成や組織におけるケアの向上が可能となると感じました。例えば、インシデントの少ない職員がいつも指差し呼称しているという行動を皆で行えば、職場全体の安全性が向上する等の効果が得られると思います。高い成果を生み出す行動特性には背景要因が存在し、それが一番重要ですが、最初から全て備わっているものではない為、他者から学びつつ、自己研鑽に努め、個人の人間力を高めていく事が大切だと思いました。学んだコミュニケーションスキルと共に今後、現場で活かしていきたいと思っています。

諸会議報告

平成30年度 地域医療委員会

日 時 平成30年10月10日（水）15：00～17：00

開催場所 新山口ターミナルホテル

【協議事項】

1. 地域医療構想の現状と今後の見通しについて
県担当者による説明
2. その他

平成30年度 第4回理事会

日 時 平成30年11月9日（金）15：30～17：00

開催場所 新山口ターミナルホテル

【承認事項】

1. 平成30年度山口県病院協会収支予算の執行状況について
2. 病院医療事務担当職員研修会について
3. 冬季医療経営講習会について
4. 賛助会員の入会について
5. 医療分野における電波の安全性に関する説明会に対する後援について

【協議事項】

1. 第24回四県病院協会連絡協議会の提案議題について
2. 平成31年度定時総会時の特別講演について

【報告事項】

1. 肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業について
2. 平成30年度診療報酬改定影響度調査について

3. 県行政委員等の推薦について

- ・山口県医療審議会委員
会長 木下 毅（再任）
- ・山口県がん対策協議会委員
理事 名西 史夫（再任）
- ・山口県がん対策協議会がん登録部会委員
理事 村上 不二夫（新任）

4. 県各種委員会等の結果報告について

- 木下会長
- ・山口県医療審議会医療法人部会（10月29日）
三浦副会長
- ・第1回山口県社会福祉審議会（9月10日）
- ・第1回山口県死因究明等推進協議会（10月19日）
神徳常任理事
- ・第1回山口県専門医制度協議会（10月12日）
西田理事
- ・「やまぐち健康維新キックオフイベント
in山口ゆめ花博」（10月17日）
天津事務局長
- ・医療電波利用 中国協議会（9月26日）

【その他】

平成30年度 第3回情報管理委員会

日 時 平成30年12月14日（金）15：00～17：00

開催場所 新山口ターミナルホテル

【協議事項】

1. 新年号の発行について
2. 4月号の発行準備について
3. その他

事務長部会コーナー

平成30年度 山口県病院協会事務長部会 第1回常任幹事会

日 時 平成30年11月21日（水）17：00～18：00

開催場所 新山口ターミナルホテル

【協議事項】

1. 平成30年度第2回事務長部会研修会について
2. 平成31年度事務長部会総会の開催について
 - 1) 平成31年度役員改選について
3. 支部会議の開催について
4. その他
 - 1) 賛助会員について
 - 2) 医療分野における電波の安全性に関する説明会について
 - 3) 障害者雇用義務・職場実習推進について



旭日双光章受章おめでとうございます

平成30年秋の叙勲におきまして、県医師会の推薦により、当協会理事の吉岡 春紀 先生が、保健衛生に尽くされた功績により、旭日双光章を授与されました。

心よりお祝い申し上げます。

今後ともご健康に留意され、地域医療の更なる充実発展に尽くされることをご期待申し上げます。



お知らせコーナー

会員等の異動

- ・宇部記念病院 病院長 山下 晃正 (変更前 病院長 小田 悦郎)
- ・俵山病院 病院長 五十嵐 三二 (変更前 病院長 吉村 康)

賛助会員の入会

- ・株式会社フジックス 代表取締役 藤光 敏夫 (下関市)
- ・東洋羽中四国販売株式会社 代表取締役 永岩 謙一 (山口市)
- ・株式会社広島銀行法人営業部 部長 藤広 稔 (広島市)

病院協会の主な行事予定

- 1月18日 総務委員会 (会場：山口グランドホテル)
- 1月18日 第5回理事会 (会場：山口グランドホテル)
- 1月25日 四県病院協会連絡協議会 (会場：ANAクラウンプラザホテル福岡)
- 1月29日 看護部長研修会 (会場：ホテルニュータナカ)
- 2月27日 第2回事務長部会研修会 (会場：山口グランドホテル)
- 3月5日 県医師会・県病院協会懇談会 (会場：割烹鄙の館)
- 3月7日 金融懇談会 (会場：松田屋ホテル)
- 3月13日 正副会長・顧問会議 (会場：古稀庵)
- 3月15日 第6回理事会 (会場：新山口ターミナルホテル)
- 3月19日 第4回情報管理委員会 (会場：新山口ターミナルホテル)
- 3月29日 冬季医療経営講習会 (会場：山口グランドホテル)

編集後記

平成最後の年が始まりました。新年号をお届けします◆今年の干支は己亥（つちのとい）です。己の年は、完成した自己や成熟した組織が、足元を固めて次の段階を目指す準備をする年だそうです。亥の年は、翌年から始まる次の種の成長に備えて、個人は、知識を増やす・精神を育てる、組織は、人材育成や設備投資・財務基盤を固めるなど、内部の充実を心がけると良い年とのことです◆木下会長をはじめ皆さまからお人柄あふれる素敵な記事をいただきました。皆さまのお言葉にもありますように大変厳しい医療界ですが、今年はまず足元を固めて更なる飛躍に向けた準備をする年かもしれません◆いのしし年ということで、山口県病院協会も猪突猛進いたしましょう。(林 弘人)